

第35回川崎市文化芸術振興会議（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 平成26年10月21日（火）
午後3時00分～午後5時20分
- 3 場所 川崎市役所第4庁舎 4階第4会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 澤井委員（議長）、垣内委員（副議長）、犬飼委員、岩田委員、小嶋委員、関委員、高田委員、林委員、藤嶋委員
 - (2) 事務局 市民・こども局市民文化室
竹花室長、大坪担当課長、石床担当係長、渡邊職員
- 5 議題
 - (1) 第4期委員委嘱式
 - (2) 会長・副会長の選出
 - (3) 会議の運営について
 - (4) 平成26年度文化アセスメント対象事業の決定
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【審議内容】

議事1 委嘱式開催

議事2 会長・副会長の選出

事務局 「川崎市文化芸術振興会議規則」の第3条に基づき、会長1名、副会長1名を委員の互選により行いたい。まず、会長についてはいかがか。

事務局 第3期の会議の会長が今回も委員としておられるので、会議の継続性を考えて、今期も澤井委員に会長をやっていただければと思うが、いかがか。賛成の場合、挙手をお願いしたい。

（委員挙手）

事務局 続いて副会長を選任したいがいかがか。

事務局 第3期の会議の副会長が今回も委員としておられるので、会議の継続性を考えて、副会長についても垣内委員にやっていただければと思うが、いかがか。賛成の場合、挙手をお願いしたい。

(委員挙手)

事務局 では、議題2 会長・副会長の選出については、会長を澤井委員に、副会長を垣内委員に決定する。議題3以降の進行は、川崎市文化芸術振興会議規則第4条第1項の規定により澤井会長に議長をお願いしたい。

議事3 会議の運営について

澤井議長 よろしくお願ひします。それでは、議事に入らせていただきたい。

会議の運営について、まずは会議の仕組やこれまでの経過等について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 振興会議については、文化振興に関する重要事項や文化芸術振興計画策定の際の審議等、様々な役割がある。このうち、振興計画については昨年度策定済みであり、当面は文化アセスメントの実施が主となる。

文化アセスメントとは、市の主要な文化事業に対して、様々な分野の専門家や市民委員で構成される文化芸術振興会議が、多角的な目で実地調査等を行い、市に対して現在の評価や今後の展開についての提言を行う仕組であり、平成21年度から実施されている。

評価項目については、文化芸術性だけではなく、事業目的の設定の妥当性や市民参加の度合、効率性等、様々な視点から評価を行っていただいている。

次にスケジュールについてであるが、年度末までの間に事業の実地調査を行い、その後、担当部署等のヒアリングや書面の調査等を行いながら7～8月ごろまでに評価をまとめ、その後、評価内容について市長に報告するような流れとなる。評価を受けた市は、振興会議からの報告書をホームページで公表するとともに、提言内容についての実施状況を毎年度公表する。

最後に、過去の実施体制についてであるが、例年、2つの事業を文化アセスメントの対象として選定しており、平成23年度までの3年間はA、B2グループに分かれ、それぞれのグループが各1事業の取りまとめを主に担当していくような体制で実施していた。平成24年以降の2年間については、グループ分けはせず、調査から取りまとめまで全員が審議するような方式をとっている。

今年度のアセスメントの体制や運営方法等について御審議いただきたい。

澤井議長 会議の運営方法、特に今年度の評価体制について委員の皆様から意見等お願いしたい。

関委員 アセスメントについてお聞きしたいのだが、議題4の資料に候補事業が7つ掲載されている。これは、どのような形で選ばれたのか。

事務局 現在の文化芸術振興計画の対象事業は100以上あるが、必ずしも文化芸術が主となっている事業ばかりではなく、事業の一部に文化芸術を活用しているような事業も多くある。そのため、文化芸術をある程度主に据えて活用しており、一定以上の規模を持つ事業。また、今年度は委員改選もあり、下半期からの開始となるため、これから実施される事業に絞り込んだ結果、資料にある7事業が残った。

澤井議長 市民によりこれら以外にも様々な文化事業が行なわれているが、行政が一定程度以上関わっているものが対象となる。

岩田委員 文化事業全体の予算は？

事務局 文化室関連の予算であれば施設管理等含め約20億円前後であるが、市全体で考えると、文化芸術振興計画自体、福祉や教育など様々な分野に文化芸術を活用していこうという計画であるため、対象事業には、例えば子ども文化センターの運営のように、文化を一部だけ活用しているような事業が多く含まれている。そのため、どこまでを文化事業費としてとらえるのかの線引きが困難であり正確な数字は出しにくい。

澤井議長 個々の事業については、アセスメントの対象に決まったら、事業費等のデータを出してもらっている。

高田委員 毎年提言を出しているが、以降の事業にどう活かされているのかが見えない。

事務局 予算等の制約もあり、全ての提言を実行できるものではないが、実際の提言の実施状況については、毎年振興会議に報告するだけではなく、ホームページ等で市民に向けて公開しており、一定程度担保されていると考えている。

澤井議長 来年度の実施体制についてはどうか。

事務局 実施体制について、特に御意見が無いようであれば、委員も多く変わったこともあり、今年度は昨年度同様、全員でアセスメントを実施いただき、やっていく中で体制や評価方法について、より良いものがあれば来年度以降に向けて提案いただくということでいかがか。

澤井議長 ただいまの、事務局の提案についてはいかがか。

異議が無いようであれば、今年度の実施体制は、昨年同様、全員で実施ということにしたい。

議事4 平成26年度文化アセスメント対象事業の決定

澤井議長 続いて平成26年度文化アセスメント対象事業について、事務局より説明をお願いしたい。

事務局 議題資料4を御覧いただきたい。先ほど御説明したとおり、下半期に実施される事業を中心に、7事業を候補として掲載させていただいた。

事業1から3は、区役所が市民と協働で実施している音楽イベントであり、そ

れぞれ特色が異なる。

1の『さいわいハナミズキコンサート』については、幸区の実施事業であり、ミューザ川崎で開催している。このコンサートは、幸区に縁のある音楽家等が出演しており、区民が舞台に立つというよりは、鑑賞機会の提供という側面が強い事業である。

2の『高津区民音楽祭』は、日程を3日に分け、それぞれの日程で声楽、器楽、アンプを使用した音楽とジャンル分けすることにより、幅広いジャンルの団体が参加できる仕組みとなっている。また、本番に向けて子供向けのパーカッション教室を開催し、参加した子供が本番で披露するという取組も行っている。

3の『In Unity 事業』については、出演者・運営者ともに若者が非常に多いことが大きな特徴である。ホームページ運営や、事前のPR活動、公開オーディションやゴスペル隊の公募等、自由な発想で行われている。

4の『シニアファッションショー』については、昨年度から開始された事業であり、公募で集まった高齢者がレッスン等を受けたうえでファッションショーの舞台に立つものであり、高齢者の生きがいづくりや地域参画など、福祉的な効果も担っている。

5の『東海道かわさき宿交流館』については、昨年10月に川崎に開館した文化交流施設である。東海道をテーマとした展示や、企画展、講座等を実施している。管理運営は指定管理制度を敷いており、川崎市文化財団及び観光協会に委託している。

6の『日本民家園』については、生田緑地にある古民家を展示する野外博物館であり、四季折々、施設の特色を活かしたイベント等を開催している。

7の『大山街道周辺整備活性化』については、地域活性化の一環として、地域の拠点である大山街道ふるさと館等を活用したイベント等を実施している。

澤井議長
林委員

それぞれの事業について説明いただいたが、委員から質問等があれば。

それぞれの事業について、市民・子ども局は事業費のどの程度を出資しているのか。

事務局

4のシニアファッションショー以外は、各区や教育委員会等が予算を執行している。予算額は、資料にあるとおりの額である。

林委員

この中で、一番課題を抱えていそうな事業はどれか。

事務局

課題というか、『シニアファッションショー』については、昨年度始めたばかりの事業であり、試行錯誤しながら進めており、改善の余地は大きいと思われる。

犬飼委員

『東海道かわさき宿交流館』の入館者数はどうか？

関委員

多い。まち歩きが流行っており、その休憩所としても利用されているようで、当初の想定を越えた来館者が来ている。

事務局

8月に5万人を越えた。

澤井議長

既存の建物ではなく、施設のために新築したのか。

- 事務局 自転車駐輪場との合築という形で新たに建築している。また、地域の方が使える会議室機能が付加されている。
- 垣内副議長 交流の拠点ということで地域が盛り上がり、出来た施設と聞いている。
- 澤井議長 館で行われる予定のかわさきでアートとはどういったものか。
- 藤嶋委員 元々、川崎大師を中心として行われていた現代アートのイベントで、まちなかにアートを展開している。今回からは、東海道交流館も協力しており、会場で映像インスタレーション等を行うようだ。
- 澤井議長 『大山街道周辺整備活性化』については、どういった形で文化が活用されているのか。
- 事務局 大山街道という地域の文化、歴史資源をテーマにワークショップを開催したり、拠点である大山街道ふるさと館にて音楽イベント等を実施している。ただ、文化的側面よりは地域活性化イベントの一環としての文化活用という側面は強いと思われる。
- 高田委員 『シニアファッションショー』について、参加者の男女比はどうなっているか。
- 事務局 男性の参加者が2割程度であったかと思う。
- 関委員 東海道交流館などの施設事業は、そこで行なわれているイベントのみに限定して調査するのか。
- 事務局 イベント等のほか、展示も含めた施設運営全体を文化芸術的な見地から見ていただくこととなる。
- 林委員 今まで見てきた事業は、中高年が中心に参加しているものが多かった。そういう意味では、『In Unity 事業』は若者中心に運営されている。どういう仕組みで若者が参加しているのか、他の事業に波及できる要素はあるのか、非常に興味深い。
- 澤井議長 主催は、実行委員会が行っているのか。
- 事務局 実行委員会が行っており、運営はNPO法人に委託している。
- 澤井議長 若者中心のこうした事業は今までとりあげておらず、候補の一つとして考えてはどうか。そのほかの対象事業としてはどうか。
- 関委員 『東海道かわさき宿交流館』は、非常にユニークな取組を色々に行っている。今後の発展の可能性も含めて対象にするというのも良いかと思う。
- 垣内副議長 『東海道かわさき宿交流館』は、地元の熱意により設置された施設であり、指定管理料の額等から見たも効率面からしても非常にうまくいっている施設であると思う。『In Unity 事業』にしても、若者参加が進んでいる成功事例のように思われる。
- 事務局 両方ともうまくいっている事業に見えるが、文化アセスメントの実施方法として、支障がある事業を選びより良い方向に導いていくのか、又は成功事例を評価し広めていくのか。今までは、前者が多かったように思うが。
- 事務局 アセスメントの方向性については、あまりいい面だけを見せてということばかりではどうかと思うが、どちらの方向でなければならないとは考えていない。『東

海道かわさき宿交流館』については、まだ新しい施設であり、課題はあるかと思われる。

高田委員 『シニアファッションショー』については、我々が手をつっこむ必要は無い。使っている予算を考えると、『日本民家園』を対象とすべきではないか。

澤井議長 民家園であると、博物館施設の運営についてということになるが。

垣内副議長 囲炉裏に火をともしなどボランティアがかなり活動しており、地域との連携も活発になされている。通常の博物館施設とはちょっと違う特色がある。

関委員 いくつか、関わりを持っている事業があるが、一番困っているのは『さいわいハナミズキコンサート』と『大山街道周辺整備活性化』だと思う。ハナミズキについては、企画は良いのだがなかなか市民の鑑賞者が来ない。大山ももう一つ商店街が盛り上がってこない。

澤井議長 文化芸術振興会議の審議内容については、あくまで文化的な側面からの切り取りが主眼となるので、文化を活用した活性化等については述べられるが、例えば専門外である経済活性化等をメインに置いた提言を行うことは出来ない。そのため、大山街道のように幅広いまちづくりがテーマとなっている場合、どこまで踏み込むことができるか、切り分けが難しい。

関委員 事業のアセスメントを行ううえで、芸術性だけで見るというわけではなく、運営面まで幅広く見るという理解はそれで良いか。

事務局 文化事業ということであれば、芸術面だけではなく、広報がどうなっているか、市民参加がどうなっているか、費用効率はどうかなど、多角的な視点で見ていただく。

澤井議長 そろそろ、絞込みに入りたい。現在あがっている候補は、1の『さいわいハナミズキコンサート』、3の『In Unity 事業』、5の『東海道かわさき宿交流館』、6の『日本民家園』、7の『大山街道周辺整備活性化』などだが。最初にあがった3については、皆さんいかがか。

垣内副議長 3については、若者参加の多い成功事例のように見えるが、どこかに問題があるのか。我々が何か[コメントすることを言い、言ったとき](#)にどういうインパクトがあるのか。

林委員 若者が多く関わっている理由が、どこにあるのか。行政の関わり方が、他とどう異なるのか。こうした事例を研究して、他に広げるということも必要。

澤井議長 確かにこれまで検証してきた事業の多くが、若者の参加が少ないという課題を抱えていた。そういった意味でも、若者参加という面で成功している事例を見て他に活かして行くという意味では良いかもしれない。残るもう一つの事業についてはどうか。1、5、6、7が残っているが。

林委員 予算からいえば6、『日本民家園』かと思う。

澤井議長 一つ目が音楽事業ということもあり、音楽事業は除外したい。また予算面から見れば、博物館施設としての6『日本民家園』か、新しい形態の文化施設である

5 『東海道かわさき宿交流館』かと思うが皆さんはどうか。

もし、まとまらないようであれば、メールのやりとりになってしまうが、各々事務局に意見を送付していただき、それを受けて事務局で意見をまとめて、また投げ返すという形で決めてはいかがか。

この2事業については、決定が多少遅れても問題ないか？

事務局

通年開設の施設の運営であるため、多少決定が遅れたとしても支障は少ないと思われる。御意見については、1週間後の28日までにメール又はFAXで事務局あて送付いただきたい。いただいた内容について、会長と相談させていただき、まとめたうえで、各委員にもう一度投げ返させていただく。

澤井議長

それでは、今言った形でお願いしたい。

以上で、本日の会議を終了とする。

(会議終了)